



お話の学習指導案



教育目標

題名 ・ ちょうせんのおんがくをつくったパク・ヨン

年齢 ・ 児童(6~9歳)

主題 ・ 目標:ちょうせんのおんがくをつくるためにどりよくしたパク・ヨンについてしる。
・ 主題:どりよく

キーワード ・ どりよく, パク・ヨン, セそう (セジョン) 大王, へんけい, ががく, ヒョンアク, さいれいがく, きゅうていおんがく, でんとうがっき

韓国文化 ・ 目標:ちょうせんのきゅうていおんがくとパク・ヨンがつくったがっきについてきょうみをもつ。
・ 要素:ちょうせんのきゅうていおんがく、へんけい

韓国語

- ・ 目標:どうしのさまざまなつかいみちをならう。
- ・ 単語:불다 (ふく)
- ・ 表現:
 - 피리를 불다 (ピリをふく。)
 - 나팔을 불다 (ラッパをふく。)
 - 휘파람을 불다 (口ぶえをふく。)
 - 풍선을 불다 (ふうせんをふく。)



口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！
みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話をる‘○○○’、
うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、タイトル、さっさと出てこい！
“ちょうせんのおんがくをつくったパク・ヨン”です。

みなさん、かんこく(韓国)のでんとうがっきにはどのようなものがありますか？そうですね。みんなよくしていますね。ピリ、コムンゴ、ケンガリ、ブク(たいこ)などがありますね。むかし、ちょうせんじだいには国のぎょうじで中国からもちこんだおんがくをえんそうするばあいがおおかったそうです。しかし、せそう(セジョン)大王のめいれいでがくふをせいりしてがっきをつくり、中国のおんがくをかんこく(韓国)しきにかえてあたらしくかんせいさせた人です。その人がだれなのか、いちどあってみましょうか？



お話の始まりの歌を歌う

“ちょうせんのおんがくをつくったパク・ヨン”のお話の中へしゅっぱつ！
♪ いち にいさんし！ お話のはじまり！ わたしたちみんながたのしく、よく聞いてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にいさんし！ しゅっぱつします。パンパン～

口演 活動内容



お話を聞かせる

むかしちょうせんじだいにパク・ヨンという子どもがいました。パク・ヨンは、小さいときからおんがくがとても好きでした。がっきにもとてもきょうみがありました。とくにピリはいつももちあるいて、ひまがあればえんそうをしていました。

そうしたある日、おとうさんがついになくなりました。そしてすう年ごには、おかあさんまでなくなってしまいました。りょうしんをみんななくしたパク・ヨンは、とてもかなしみました。パク・ヨンはりょうしんのはかのまえて、なつかしいきもちをこめてピリをふきました。その音がどれだけうつくしくさびしかったのか、山の中のトラもおんがくにききほれて、パク・ヨンをこうげきしなかったといえます。

大人になったパク・ヨンは、いっしょうけんめいにべんきょうして、かきよしけんをうけることになりました。しけんをおえたパク・ヨンは、いえにかえるところでした。そのとき、きゅうていからパク・ヨンのところをとらえるピリの音がきこえました。

“なんてこった！こんなにすてきなえんそうははじめてきいたなあ。”

パク・ヨンはピリの音につれられて、みやのすみずみまでまよいこみました。そして、やっとえんそうする人を見つけました。その人はみやでしごとをする、がっきのえんそうかでした。



お話を聞かせる

“おや。ほんとうにすてきなえんそうですね！わたしにもそのほうほう（方法）を教えてくださいませんか？”

するとえんそうかは、びくっとおどろいてへんじをしました。

“だめです。ピリはわたしたちのような人がふくものです。おえらいがくしゃさんがどうしてピリをふこうとおもわれるのですか。それに、あえてあなたをおしえることなどは、わたしにはできません！”

しかし、パク・ヨンはあとへひかずにしつこくたのみました。

“そういわずにおねがいだからおしえてくれ！”

パク・ヨンはついに、えんそうかにピリをふくほうほう（方法）をならうことになりました。どんなにねっしんになったのか、えんそうかよりもすてきなえんそうができるようになりました。

“あなたはすべての音をすぐにならわれて、ほんとうにすごいですね！”

パク・ヨンはそのあとにも、ひまあるごとにピリをふくれんしゅうをねっしんにしました。ピリだけではなく、コムンゴとびわなどのほかのがっきもならっておぼえました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

そのいっぽうで、かきよしけんにごうかくしたパク・ヨンは、みやではたらくことになりました。王子のべんきょうをてつだうしごとでした。みやでしごとをするあいだにも、パク・ヨンはがっきのれんしゅうをしました。王子はそんなパク・ヨンをちゅういぶかくみました。

“あなたはほんとうにピリがじょうずですね。おんがくもまんべんなくとてもよくしている。”

王子はパク・ヨンにつけくわえていいました。

“おんがくは国をよくおさめるときにも、とてもじゅうようだという。とくにごせんぞさまをよんできおくする、さいし(チェサ)をおこなう時にもかならずひつようなものがおんがくだ。あとでわたしが王になれば、わたしのちかくでかならずしごとをしてくれ。”

パク・ヨンはおんがくをじゅうようにかんがえる王子のきもちをしり、とてもよろこびました。

じかんがすぎて、王子はついに王になりました。まさにせそう大王だったのです。せそうはパク・ヨンをきおくして、すぐによびました。



お話を聞かせる

“パク・ヨン、きみのたすけがひつようなのだ。みやでえんそうできるわたしたちのおんがくをつくってみよう。えんそうするとき、すべてのがっきたちのちょうわがとれるようにしなければならない。だから、すべてのがっきのちゅうしんになるようながっきも一つつくろう。”

パク・ヨンはせそうのはなしをすぐりにりかいました。

ふだんからパク・ヨンも、せそうとおなじかんがえだったからですね。

パク・ヨンはだいだいつづくちょうせんのでんとうおんがくのしりょうたちをしらべてべんきょうしました。そして、ちょうせんのこころとせいしん（精神）をこめた音たちをあたらしくつくりました。

それだけではありませんでした。パク・ヨンは‘へんけい’というがっきをつくるために、やれるだけのことをしました。へんけいは音をあわせるのにちゅうしんになるがっきです。

“王さま、へんけいをつくるのにひつようなざいりょうをてにいれるのがとてもたいへんです。どうしたらいいのかわかりません。”

このことばをきいたせそうはさいぜんをつくして、パク・ヨンをたすけました。

そうしたある日でした。



お話を聞かせる

“王さま!へんけいをつくるのにかならずひつようなヒスイをてにいれました!ついにめいかくな音を出すことができます!”

ヒスイをはっけんしたパク・ヨンは、あまりのうれしさにひと足ではしりました。

せそうもいっしょにとてもよろこびました。

“おつかれさまだ!すぐにへんけいをかんせいしろ!”

つかれそうなこともあったけれど、パク・ヨンはこんきをもってひるもよるもけんきゅうをしました。このようなパク・ヨンのどりよくのすえに、ついにへんけいがかんせいしました。

“よし。えんそうしてみなさい。”

パク・ヨンはせそうがみているまえで、へんけいをえんそうしはじめました。せそうは音をせいかくにきくことができました。さいごまできいた王がいいました。

“一つの音がすこしたかいみたいだな。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

そのことばに、パク・ヨンがへんけいをちゅういぶかくみてみました。ほんとうに音をあわせるヒスイの一つにもんだいがありました。もういちどなおしてからえんそうをすると、せそうがうなずきました。

“すべての音がよくあっているな。ほんとうにおつかれさまだった！
りっぱだ！”

パク・ヨンはきゅうていのぎしきにもちいられるおんがくをせいりしました。そうして、ちょうせんのきゅうていおんがくはいっそうゆうだいでゆうがになりました。

また、がっきのけんきゅうもこつこつとしました。パク・ヨンのどりよくのおかげで、ちょうせんのおんがくはとても大きなはってんをしたといいます。



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？パク・ヨンは小さいときからおんがくをすきでがっきにもとてもきょうみがありました。とくにどんながっきをすきでしたか？

はい。ピリでしたね。‘ピリ’は口でふいて音を出すがっきです。そのため‘ピリをふく’というときの‘ふく(プルダ)’ということばは‘ラツパをふく’、‘ふうせんをふく’、‘口ぶえをふく’というときもつかいます。

みなさん、おんがくにとてもきょうみがあったせそう(セジョン)大王はパク・ヨンに音をあわせるのにひつようながっきをつくろうとしましたね。そのがっきはなんですか？

そうですね。へんけいです。せそう(セジョン)大王はパク・ヨンにすべてのがっきのちゅうしんになるがっきをつくるようにいいました。パク・ヨンはちゅうやどりよくしたすえに‘へんけい’をつくりきゅうていおんがくをせいりしました。もともと中国のがっきだったへんけいをちょうせんのおんりつにあわせてあたらしくたんじょうさせたものですね。中国のおんがくとくべつするためにはがくふもせいりして、ちょうせんのどくそうてきなおんがくをつくるのにせいこうしました。このように、パク・ヨンはちょうせんのきゅうていおんがくをおおきくはってんさせたといえます。

パク・ヨンとせそう(セジョン)大王のきゅうていおんがくにきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらん お話ホームページ’でくわしいないようをしらべてみてね！

口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、おばあちゃんと“ちょうせんのおんがくをつくったパク・ヨン”のお話をまとめてみましょう。

パク・ヨンは子どものときからおんがくがすきでがっきのえんそうにもとてもきょうみがありました。かきょしけんにごうかくしたパク・ヨンはきゅうていでつかうがっきとえんそうおんがくをかんりするこくじをすることになりました。そしてがっきをよりよくつくて、がくふもつくり、かんこくのおんがくをおおきくはってんさせたといいます。みなさんもパク・ヨンのようにすきながっきがあればいっしょうけんめいにれんしゅうしてどりよくして、おんがくをあいするともだちになってほしいです。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

♪ いち にい さん し！ お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。

さようなら！